

道徳だより「清明（せいめい）」 第2号

令和7年5月21日
発行
美川中学校道徳係

先日、教員の道徳の授業力向上に向けて、岐阜聖徳学園大学の山田貞二教授を本校にお招きして、2年2組での師範授業と、教員向けの校内研修会を行っていただきました。子どもたち、教員ともに大変参考になる内容ばかりで、多くの学びがありました。今回は、その時の授業の様子をお伝えします。

○山田教授の公開授業（2年2組）

＜内容項目＞

B 他の人との関わり 思いやり、感謝



＜教材名＞ 「バスと赤ちゃん」

＜あらすじ＞

ある日、新宿行きの満員のバス車内で、赤ちゃんが泣き出した。バスが途中のバス停に止まると、赤ちゃんのお母さんは運転手に「新宿駅まで行きたいのですが、子どもが泣くので、ここで降ります」と伝えた。すると、運転手はマイクで乗客に「お母さんは皆さんに迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行って下さい」とアナウンスした。ほんの数秒かが過ぎた時、一人の拍手につられてバスの乗客全員が拍手をした。赤ちゃんのお母さんは何度も何度も頭を下げていた。

- ＜発問＞
- 1 「拍手は、何に対する拍手だったのだろう」
 - 2 「自分がお母さんだったら、拍手の後どうするか」
 - 3 『本当の「思いやり」とは何だろう』



＜授業の様子＞



＜生徒のワークシートより＞

- ・今まで思いやりは全て相手のためになっていることだと思っていたけれど、授業を通して必ずしもそうでないことを知った。
- ・自分が思いやりと思っていても、相手にとっては迷惑になることもあると分かったので、本当の思いやりとは何か考えていこうと思った。
- ・相手のことを考えるだけでなく、相手にとって最良な行動をすることも本当の思いやりだと知ることができた。
- ・今日話を聞いたり、他の人のちがう意見を聞いたりして、本当の思いやりについて考えることができた。
- ・自分は運転手さんみたいに勇気ある行動はできないと思った。